シーボルトとヒトリシズカ

ヒトリシズカはまだ早春の斜里で花を咲かせる植物です。5月の雪解け間もない林に、白いブラシのような花を咲かせます。短い根茎をだして増えるため1箇所にたくさんの株が見られ、花の少ない季節によく目立ちます。

花は穂状花序（すいじょうかじょ）という多数の小さな花が細長く集まったもの。これが1茎に1本だけ、4葉の上にでるのが和名の由来です。花びらはなく、花びらっぽい白い部分は雄しべの一部がのびたもの。よくみると白い部分の根本に黄色い葯（やく：花粉の袋）があります。開花前の紫色の葉はガラスのような透明感があり、印象的です。

良く似たフタリシズカという植物も斜里で見られますが、これは開花がヒトリシズカより遅く6月から。花序は枝分かれして1–3本になり、雄しべの一部が糸状にのびず、葉のふちの切れ込みが浅いことなどで見分けられます。といったものの、初めは違いが分かりにくいことも確かです。

ヒトリシズカの学名は*Chloranthus japonicus*、この名前は日本史の教科書でお馴染みのシーボルトによって1828年に発表されたものです。ところが最近の研究で面白いことがわかってきました。どうやらシーボルトはヒトリシズカとフタリシズカを混同しており、そのせいで彼の発表した学名は使えなくなったのです。

オランダのライデン大学の標本庫には彼が日本で採集した標本があります。ここで*C. japonicus*を新種として発表するのに使用した標本を検討したところ、ヒトリシズカとフタリシズカが混じっていたのです。しかも標本台紙への本人のメモからは、フタリシズカが典型的な姿、ヒトリシズカについては違いに気づきつつも、変種程度ではないかと彼が思っていたことも明らかになったのです。

従って、*C. japonicus*はフタリシズカに対して使われるべきなのですが、フタリシズカにはすでに別の研究者が*C. serratus*という学名を1818年に発表しています。学名には優先権があり、シーボルトの1828年の学名は不要になるのです。

ではヒトリシズカの学名は？　これはシーボルト以後に発表したため不要とされていたものから、最も古いものが正名として浮上します。*Tricerandra quadrifolia*がそうですが、属名の*Tricerandra*は現在使われていないので*C. quadrifolius*という新しい組み合わせが作られました。

植物の姿は変わらずとも、研究が進めば身近な植物の名さえ変わります。江戸時代のシーボルトの思いをより正確に学名に反映できたことで、彼の学名が不要になるというのは皮肉な結末でしたが。来春はこれら2種を見比べ、長崎で標本を前に考え込む彼の気持ちを想像してみてはいかがでしょう。　（内田暁友）

ヒトリシズカ（2012年5月18日ウトロ）

発行　知床博物館協力会 2014.8.27
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256　FAX: 0152-23-1257
NEW! http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/